



株主・投資家の皆様へ

Creativity &  
Challenge

**平成16年7月期(第43期)中間事業報告書**

平成15年8月1日から平成16年1月31日まで

**JASDAQ**

証券コード：6267



包装システムのトータルプランナー

**ゼネラルパッカー株式会社**

# 主要経営指標

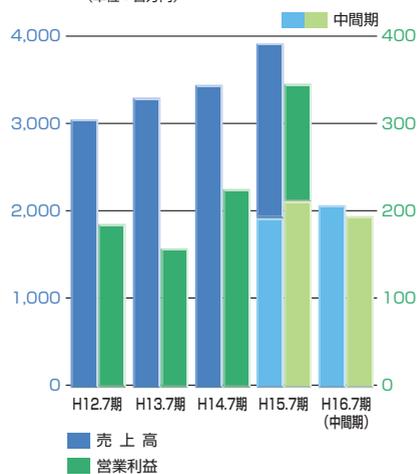
# FINANCIAL HIGHLIGHTS

(単位：百万円)

		平成12年7月期 (第39期)	平成13年7月期 (第40期)	平成14年7月期 (第41期)	平成15年7月期 (第42期)	平成16年7月期 (第43期)
売上高	中間期	—	—	—	1,884	<b>2,033</b>
	通期	3,019	3,268	3,414	3,829	<b>4,100 (予想)</b>
営業利益	中間期	—	—	—	208	<b>191</b>
	通期	182	154	222	337	<b>398 (予想)</b>
経常利益	中間期	—	—	—	215	<b>203</b>
	通期	160	159	233	345	<b>410 (予想)</b>
中間(当期)純利益又は 中間(当期)純損失(△)	中間期	—	—	—	125	<b>122</b>
	通期	△31	80	109	197	<b>238 (予想)</b>
総資産		3,807	3,659	3,757	3,752	<b>4,114 (中間期)</b>
株主資本		1,840	1,904	1,994	2,153	<b>2,474 (中間期)</b>

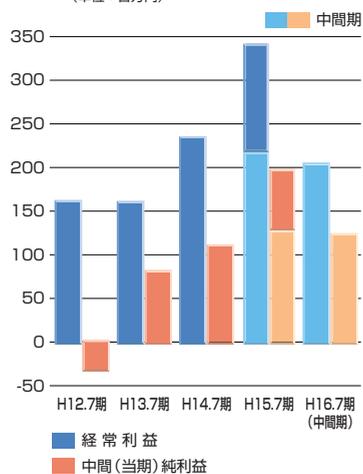
■ 売上高・営業利益

(単位：百万円)



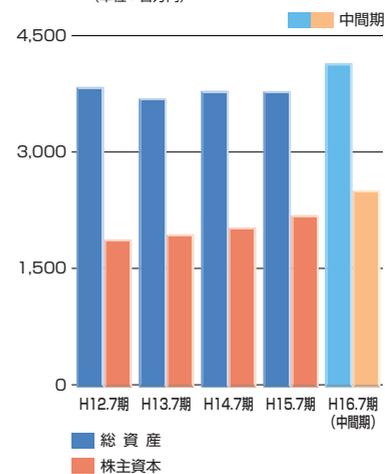
■ 経常利益・中間(当期)純利益

(単位：百万円)



■ 総資産・株主資本

(単位：百万円)



株主・投資家の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

おかげさまで、当社は平成15年12月18日にジャスダック市場へ株式上場を果たすことができました。これもひとえに皆様の温かいご支援とご指導の賜物と心より厚く御礼申し上げます。

ここに、当社第43期の中間事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶をかね、当社の概要についてご案内申し上げます。



### ◆独創的な技術・開発力で包装文化に貢献します。

「創造と挑戦」を社是に、当社では1961年の創業当初から研究開発に重点を置き、高品質・高性能でありながら非常に使いやすい機能をもった新機種開発にチャレンジする技術者精神を誇りとして、自動包装機械の開発・製造・販売を手掛けてまいりました。

包装はモノを安全に保護し流通しやすくするだけでなく、販売促進や情報伝達といった機能も担っています。モノに付加価値を与え、生産者と消費者の媒介を果たす、それが包装の使命です。

近年、包装機械及び荷造機械業界を取り巻く環境も変化しておりますが、当社はこれらの変化をビジネスチャンスと捉え、独創的な技術と開発力を活かしながら差別化を図り、包装文化の発展に寄与していきたいと考えております。

### ◆ドライ業界のオンリーワン企業を目指します。

包装機械業界は、受注価格の低下とともに受注競争が一段と激しくなり、各社は一層の経営改善努力が求められております。

このような状況下、当社では経営ビジョンとして、第一にドライ物向け包装システムでNo.1企業を目指す。第二に知的労働特化型企業として、少数精鋭主義に徹し、提案営業や開発・設計、機械の試運転・調整等の付加価値業務に特化。第三に包装システムの市場創造型トータルプランナーを目指すことを掲げております。また、実現に向けた基本戦略として、包装機械業界の中で、事業領域をドライ物(乾いた粉末・顆粒・固形物等)向け包装システムに特化するとともに、「高機能を求めるトップ企業に、高い機能を持った製品を提供する」という差別化集中戦略を進めております。

今後も株主・投資家の皆様のご期待に添えるように「高収益体質で健全かつ強い会社」を目指して邁進してまいりますので、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成16年4月

代表取締役社長 原 淳

## ◆当中間会計期間の概況

当社の営業活動におきまして、当中間会計期間で2件の新機種を開発して市場へ投入する一方、東京で開催された展示会（2003日本国際包装機械展）への出展による見込み客の拡大と新機種の拡販、重点対象市場への迅速な水平展開等、積極的な営業活動を推進してまいりました。また、業績先行管理の徹底による計画経営の推進、生産性の向上等を図り、収益力の強化に努めてまいりました。

この結果、売上高は前期に引き続きチャック付対応機種の販売が好調に推移するとともに、ガス充填自動包装機の新機種販売の寄与もあり、2,033百万円（前年同期比7.9%増）と増収になりました。一方、展示会出展費用の発生等により販売費及び一般管理費が増加したことから、経常利益は203百万円（前年同期比5.5%減）、中間純利益は122百万円（前年同期比1.9%減）と若干の減益となりました。

## ◆品目別売上高の概況

給袋自動包装機は、チャック付対応機種及び中袋用機種の販売が好調に推移して販売台数が増加したため、売上高は1,014百万円（前年同期比15.2%増）となりました。

製袋自動包装機は、高価格機種の販売は堅調でしたが、前年同期に比べ大型包装システム用機種の実績が無かったことから、売上高は258百万円（前年同期比38.7%減）となりました。

ガス充填自動包装機は、従来機種より高価格の新機種7台の実績で平均価格が増加したため、売上高は210百万円（前年同期比77.5%増）となりました。

包装関連機器等は、少額機器の受注活動の強化で販売台数が増加したため、300百万円（前年同期比19.2%増）となりました。

保守消耗部品その他につきましては、高額な保守案件の受注件数が増加したため、売上高は249百万円（前年同期比17.7%増）となりました。

## ◆通期の見通し

包装機械業界においては、個人消費の回復にはまだ時間がかかることが予想されることから、最大需要先の食品部門の設備投資意欲は引き続き低調のまま推移するものと予想されます。

当社といたしましては、当中間会計期間の売上高は当初の計画通りで、経常利益も当初の予想よりも順調に推移していることから、引き続き販売が好調なチャック付対応機種や新機種を中心に受注活動を強化していくとともに、更なるコストダウン及び生産性の向上に努め、増収、増益を図ってまいります。

以上により、通期の業績予想といたしましては、期初計画通り、売上高4,100百万円（前期比7.1%増）、経常利益410百万円（前期比18.7%増）、当期純利益238百万円（前期比20.8%増）を予想しております。

## ■品目別売上高構成比



# Products Line-up

## 取扱製品

### 給袋自動包装機

粉末から固形物まであらゆる充填物（米菓、キャンデー、ビスケット、スナック食品、穀類、豆類、ふりかけ、パン粉、各種海産物、小麦粉、きな粉、だんご粉、化学調味料、粉末薬品、機械・電気等の部品、その他袋詰可能な物）に対応できます。また、対象物、袋サイズ、袋形態の幅広いニーズに対応が可能です。



### ガス充填自動包装機

不活性ガス封入（花かつお、コーヒー、バターピーナッツ、お茶、ビーフジャーキー、カットチーズ、生パン粉等のガス充填包装対象物）により商品の Shelf Life を延長させることが可能です。



### 製袋自動包装機

充填物は、給袋自動包装機と同様ですが、小袋の高速包装から大袋用包装（精米、業務用スパゲティ、顆粒洗剤、化学調味料、輸液バック等）までの対応が可能です。包材はコストの安い各種のフィルムの使用ができます。また、包装システムライン化のための後工程機械との連動に適しています。



### 包装関連機器

当社包装機をシステム化するための周辺機器及び顧客の生産に必要な他社包装関連機器を取扱うことで、幅広い包装ラインの合理化・省力化に対応が可能です。



## 当社事業活動をご理解いただくために

### ◆ドライ業界での高シェアを基盤に成長分野への深耕を図る

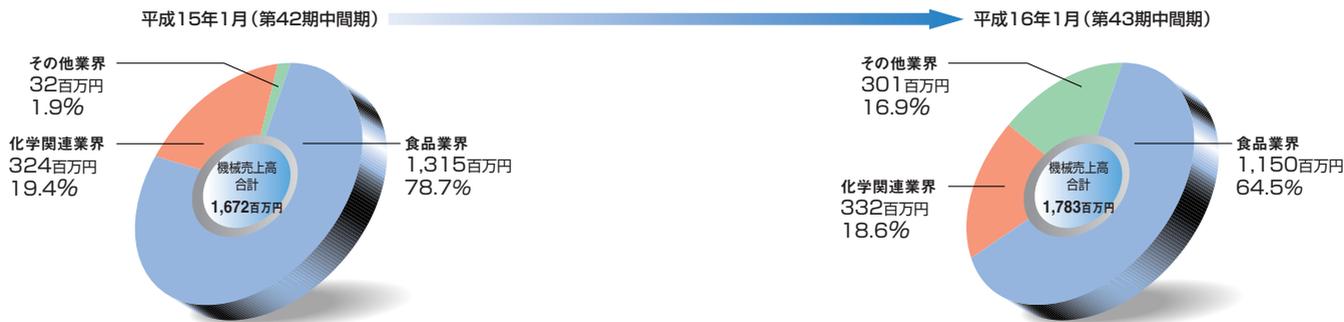
日本の包装機械技術の導入期ともいえる60年代、当社は小麦粉などの粉末包装技術開発によって業界に先鞭をつけ、以来「技術と品質のゼネラルパッカー」として国内外に2,000社以上の納入実績を持つまでに至っています。とくに当社独自のロータリー式包装技術（給袋技術・高ガス置換技術・製袋技術・チャック付製袋技術等）におけるメカニカル機構は、他社の追随を許さない高度な技術の結晶であり、安定性、耐久性ともにお客様の高い信頼を得ています。

当社の給袋包装機械は、製粉・菓子などの「ドライ業界」において業界トップにあり、中でも鯉節・製粉・製水では圧倒的な

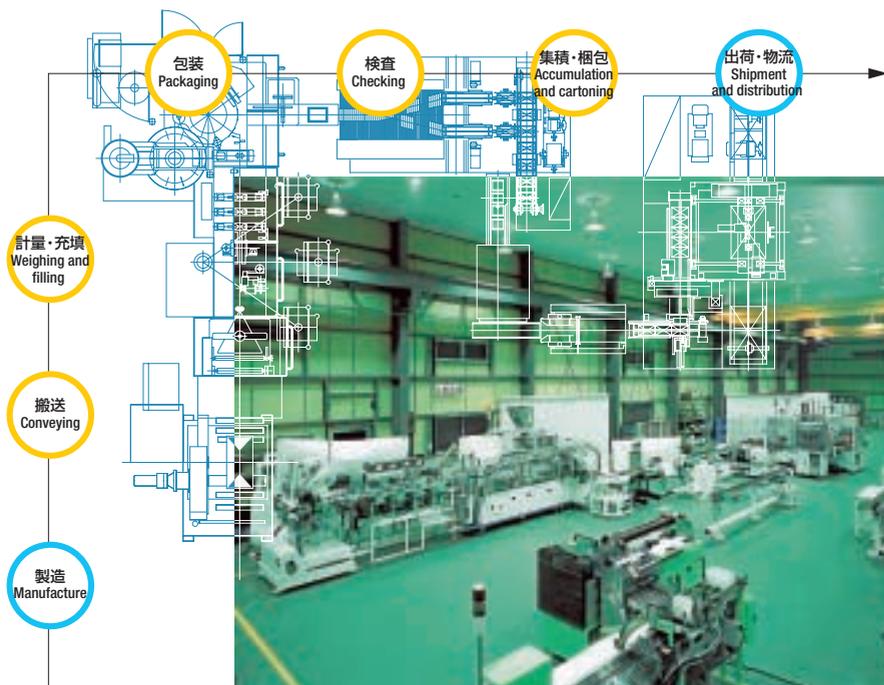
シェアを獲得していますが、持続的な成長を続けるために、安定市場である食品関連分野を一層強化するとともに、今後大きな需要が見込まれる成長分野への展開を重点的に行っています。具体的には、省エネ・省資源といった環境問題への取り組み、食の安全・衛生面などへの関心が高まる中で、これまで培ってきた技術を活かし、食品関連分野を主軸に健康食品・医薬品・ペットフード分野へも着実にテリトリーを拡大しています。



### ■最終ユーザー業界別売上高構成比



- (注) 1. 食品業界には、精米・製水・製粉・鯉節業界を含めております。  
 2. 化学関連業界には、製薬・化粧品業界のほか、健康食品関連についても含めております。  
 3. その他業界は、機械業界、受託包装業界、種苗業界、ペットフード業界等であります。



### ● 納入実績例 ●

- ・ ドリップ式コーヒー包装システム
- ・ 輸液バック (シングル、ダブル) 包装システム
- ・ アンブル充填ガス置換包装システム
- ・ 健康食品ビン詰包装システム
- ・ カップ氷充填箱詰包装システム
- ・ 種苗包装システム
- ・ スティック包装品、外装システム
- ・ 発芽玄米包装システム
- ・ カップライス包装システム
- ・ 熱帯魚餌ボトル包装システム
- ・ 歯磨き粉充填容器包装システム
- ・ ガラスウール計量包装システム等

### ◆包装プロセスをトータルに提案する

現在、包装機械業界では製品単体の製造・販売からトータル包装システムの導入へと市場ニーズが移行してきています。当社においても、コアビジネスとして搬送から計量・充填、包装、検査、集積・梱包まで、製造から出荷に至るすべての工程を一貫したシステムで提案しています。

トータル包装システムには2つのメリットがあります。1つは、複数のメーカーが関わっていた工程を1社で対応することで、全体最適の観点から包装プロセスの合理化、効率化を可能にし、ローコスト、短納期化に貢献できること。2つ目は、

独立系企業の強みを活かして計量・充填機などのあらゆるメーカーから最も優れた製品の供給を受けることができ、お客様に最適な包装システムを提供できることです。

当社は、これらのメリットを活かし、多様化・高度化するニーズをオーダーメイド（1品生産）として対応するソリューションを構築しています。

当社のトータル包装システムは、食品業界をはじめ工業化学品、健康食品、医療・医薬品業界などの包装ラインに多数納品されており、今後もお客様の強い要望にお応えして、「機種選定から開発・システム導入後の保守・サービスまでのトータルプラン」を推進してまいります。

## ■中間貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当中間期(第43期) 平成16年1月31日現在	前中間期(第42期) 平成15年1月31日現在	前期(第42期) 平成15年7月31日現在
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>3,556,704</b>	<b>3,143,893</b>	<b>3,212,280</b>
現金及び預金	1,598,698	856,195	1,113,364
受取手形	323,929	573,222	670,931
売掛金	797,028	595,036	425,615
たな卸資産	630,616	855,461	768,550
未収入金	178,636	240,181	205,526
その他	29,209	25,706	29,809
貸倒引当金	△ 1,414	△ 1,909	△ 1,518
<b>固定資産</b>	<b>557,534</b>	<b>517,973</b>	<b>539,744</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>393,822</b>	<b>365,601</b>	<b>381,584</b>
建物	226,021	217,261	234,219
その他	167,801	148,340	147,365
<b>無形固定資産</b>	<b>2,650</b>	<b>1,752</b>	<b>2,822</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>161,060</b>	<b>150,619</b>	<b>155,337</b>
投資その他の資産	161,060	150,686	155,337
貸倒引当金	—	△ 67	—
<b>資産合計</b>	<b>4,114,238</b>	<b>3,661,867</b>	<b>3,752,024</b>

科 目	当中間期(第43期) 平成16年1月31日現在	前中間期(第42期) 平成15年1月31日現在	前期(第42期) 平成15年7月31日現在
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>	<b>1,364,029</b>	<b>1,316,032</b>	<b>1,324,432</b>
支払手形	780,654	737,831	738,698
買掛金	193,468	219,452	181,668
賞与引当金	22,424	22,107	22,541
その他	367,482	336,640	381,524
<b>固定負債</b>	<b>275,961</b>	<b>267,032</b>	<b>274,062</b>
退職給付引当金	25,026	26,157	28,312
役員退職慰労引当金	250,935	240,875	245,750
<b>負債合計</b>	<b>1,639,990</b>	<b>1,583,064</b>	<b>1,598,494</b>
<b>資本の部</b>			
<b>資本金</b>	<b>251,577</b>	<b>155,000</b>	<b>155,000</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>282,269</b>	<b>135,000</b>	<b>135,000</b>
資本準備金	282,269	135,000	135,000
<b>利益剰余金</b>	<b>1,936,840</b>	<b>1,790,675</b>	<b>1,862,631</b>
利益準備金	11,000	11,000	11,000
任意積立金	1,700,000	1,600,000	1,600,000
中間(当期)未処分利益	225,840	179,675	251,631
その他有価証券評価差額金	4,001	△ 1,872	897
自己株式	△ 439	—	—
<b>資本合計</b>	<b>2,474,248</b>	<b>2,078,802</b>	<b>2,153,529</b>
<b>負債資本合計</b>	<b>4,114,238</b>	<b>3,661,867</b>	<b>3,752,024</b>

## ■ 中間損益計算書

(単位：千円)

科目	当中間期(第43期) 平成15年8月1日から 平成16年1月31日まで	前中間期(第42期) 平成14年8月1日から 平成15年1月31日まで	前期(第42期) 平成14年8月1日から 平成15年7月31日まで
売上高	2,033,400	1,884,906	3,829,059
売上原価	1,436,796	1,323,175	2,724,073
売上総利益	596,603	561,731	1,104,985
販売費及び一般管理費	404,629	353,071	767,113
営業利益	191,974	208,660	337,871
営業外収益	42,124	7,381	9,022
営業外費用	30,623	798	1,501
経常利益	203,474	215,243	345,393
特別利益	104	—	—
特別損失	—	—	1,469
税引前中間(当期)純利益	203,578	215,243	343,923
法人税、住民税及び事業税	81,173	97,622	155,183
法人税等調整額	△ 283	△ 7,471	△ 8,308
中間(当期)純利益	122,688	125,092	197,049
前期繰越利益	103,151	54,582	54,582
中間(当期)未処分利益	225,840	179,675	251,631

## ■ 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当中間期(第43期) 平成15年8月1日から 平成16年1月31日まで	前中間期(第42期) 平成14年8月1日から 平成15年1月31日まで	前期(第42期) 平成14年8月1日から 平成15年7月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	288,096	△ 456,338	△ 192,535
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 37,826	△ 9,950	△ 6,583
財務活動によるキャッシュ・フロー	235,064	△ 103,480	△ 103,480
現金及び現金同等物の増加額 (減少額△)	485,334	△ 569,768	△ 302,599
現金及び現金同等物の期首残高	1,113,364	1,415,963	1,415,963
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	1,598,698	846,195	1,113,364

(注) 中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間キャッシュ・フロー計算書の記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

## 財務探求

財務の観点から、当社をご理解いただくために

### 株主資本比率 **60.1%**

総資産に占める株主資本の割合を示す比率で、企業の安全性を見る指標です。株主資本は返済義務のない資本のため、この比率が高いほど安全性が高いといえます。

当中間期は、上場時の株式の新株発行に伴い238百万円の資金を獲得したこと及び中間純利益で122百万円を計上したこと等により、資本合計が増加し、株主資本比率は前期末比2.7%増加の60.1%となりました。

今後とも、より安全性を高めるために、引き続き安定した収益を確保して資本合計を増加させていくことで、中期的には株主資本比率を65%程度まで高めることを目指しております。

### 流動比率 **260.7%**

1年以内に資金化できる流動資産と返済しなければならない流動負債との比率で、企業の支払能力を見る指標です。一般的には、200%以上が理想的とされています。

当中間期は、キャッシュ・フローが485百万円増加したこと等により、流動比率は前期末比18.2%増加の260.7%となりました。

当社は、「健全で強い体質を有し、永続的に発展し、社会貢献できる会社」を目指しておりますので、引き続き株主資本比率の増加とともに、健全性に努めるために、流動比率250%以上を維持していくことを目指しております。

## ■会社概要 (平成16年1月31日現在)

商 号 ゼネラルパッカー株式会社  
 英 文 社 名 GENERAL PACKER CO., LTD.  
 設 立 昭和36年12月  
 資 本 金 2億5,157万7千円  
 事 業 内 容 各種自動包装機・荷造用機械及び  
 周辺装置の製造・販売・修理、  
 それに附帯する一切の業務  
 従 業 員 数 93名  
 本 社 ・ 工 場 〒481-8601  
 愛知県西春日井郡西春町大字宇福寺字神明65番地  
 Tel. (0568)23-3111(代)  
 Fax. (0568)22-3222



本 社

東 京 営 業 所 〒101-0041  
 東京都千代田区神田須田町一丁目14番6号  
 神田荒木ビル7F  
 Tel. (03)3256-3891(代)  
 Fax. (03)3256-3893

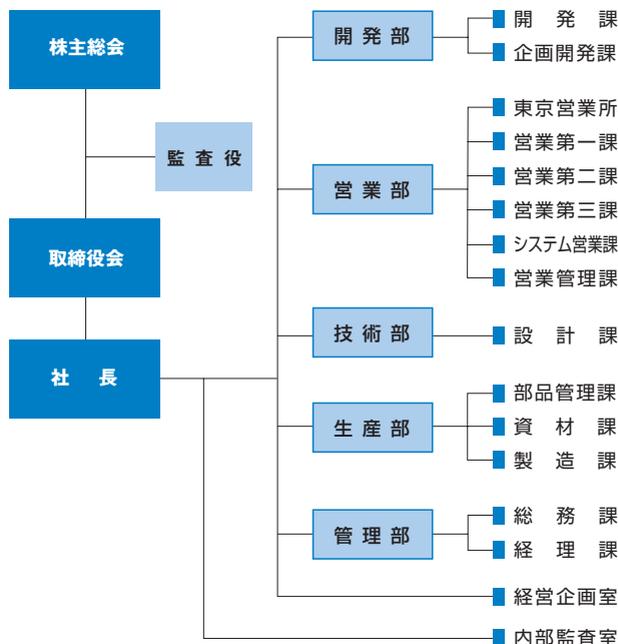


東京営業所

## ■取締役及び監査役 (平成16年1月31日現在)

代表取締役 社 長	原	淳		
専務取締役	池	澤	晃	管理部 長
常務取締役	安	江	禎	技術部 長
常務取締役	倉	知	泰	生産部 長
取 締 役	島	末	孝	開発部 長
取 締 役	梅	森	輝	営業部 長
常勤監査役	新	實	敏	
監 査 役	村	橋	泰	志

## ■組織図 (平成16年1月31日現在)



## 株式の状況 (平成16年1月31日現在)

会社が発行する株式の総数	14,000,000株
発行済株式総数	4,497,000株
株主数	583名

### 大株主

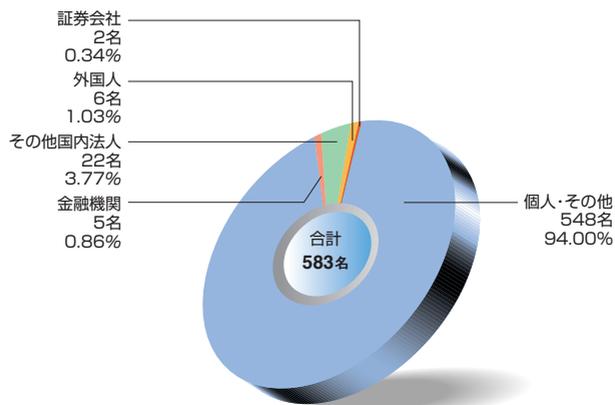
株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
従業員持株会	526,000	11.7
高野 まさ子	500,000	11.1
原 淳	364,000	8.1
りそなキャピタル株式会社	199,000	4.4
株式会社りそな銀行	196,000	4.3
高野 季久美	182,000	4.0
田中 かな	182,000	4.0

## 株主メモ

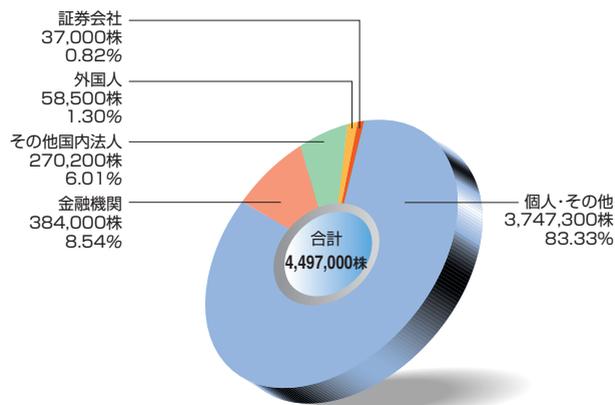
決算期	7月31日
定時株主総会	10月
基準日	7月31日 その他あらかじめ公告する一定の日
配当金受領株主確定日	利益配当金 7月31日 中間配当金 1月31日
名義書換代理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目3番17号 日本証券代行株式会社 名古屋支店 Tel. (052)261-1781(代)
同取次所	日本証券代行株式会社本支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

## 所有者別分布状況

### 株主数構成比



### 株式数構成比



ホームページをご活用ください。

当社ホームページでは、  
新着情報、会社情報、商品情報、  
IR情報等、様々な情報をご提供しています。  
今後も皆様にお役立ていただけるよう  
掲載情報の一層の充実を  
図ってまいります。



<http://www.general-packer.co.jp/>

 包装システムのトータルプランナー  
**ゼネラルパッカー株式会社**

**本社・工場**

〒481-8601 愛知県西春日井郡西春町大字宇福寺字神明65番地  
Tel. (0568)23-3111(代) Fax. (0568)22-3222

**東京営業所**

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町一丁目14番6号 神田荒木ビル7F  
Tel. (03)3256-3891(代) Fax. (03)3256-3893



環境に配慮した「大豆油インキ」を使用しています。 古紙配合率100%再生紙を使用しています。

**R100**